えん
社会福祉法人
同胞援護婦人連盟

令和 5 年 12 月発行
第 37 号

リフレここのえ
学童女児 作

「地域子育て支援の現場から」

理事長　村松　満

私どもの法人では、平成 13 年度から今日まで、八王子市からの委託事業として八栄寮ではショートステイを、リフレここのえではトワイライトステイという事業を実施しています。この事業は、地域の子育て家庭を支援するため、子どもたちを一時的に宿泊又は午後 5 時から 10 時までの間、預かりを行うもので、現在、両事業ともに定員は 1 日 3 名、ほぼ年中無休で 2 歳から小学校 6 年生までの利用者を受け入れています。

特に、ショートステイを実施している八栄寮は、自然に囲まれた広い運動場を持ち、また、専門の職員が終日対応できる体制も整えており、利用される子どもたちにとって過ごしやすく、安全な空間と評価されているためか、このコロナ禍にも多くの市民に利用されているところです。

毎月 1 日の午前 9 時から電話で先着順受付を開始しますが、大体 30 分から 60 分で翌月分のすべての枠が埋まってしまうほどの人気です。数年前には、このような利用のひっ迫は稀でしたが、コロナ禍の期間を含むここ数年は、こうした状況が普通になっています。

考えてみれば、この事業が開始された平成 13 年と今日とを比較すると、我が国の共働き世帯の割合は約 1.5 倍に増加しています。それだけ子育て家庭への社会的な支援の必要性も高まっている表れと見ることができるのではないでしょうか。かつては「利用者の要件が保護者の疾病、出産等緊急の場合に限られて」（平成 6 年 8 月「東京都児童福祉審議会意見具申」）いたようですが、いまや両親の休養、余暇活動など、親のリフレッシュや社会参加でも利用が可能な時代です。今後、より多くの人々の子育てを支援できるよう、制度の幅が広がることを祈りたいと思います。

コロナ禍を通じて、八栄寮のショートステイ及びリフレここのえのトワイライトステイが、かくも市民の強い期待を背負い重要な役割を果たしているものか、改めて認識させられた次第です。

法人としても、これまで八王子市と協力し、鋭意、市民の皆さんの需要に応えるべく頑張っていますが、今後とも、可能な限り工夫を凝らし、より多くの市民が利用できるよう、その役割を果たしていきたいと考えています。

「発見」

こどものうち八栄寮　施設長　大村 正樹

こどものうち八栄寮の生活は日々「発見」の連続である。小学校入学前の子ども達が、中庭で籠をもって拾い物をしている。手にとって見せてくれた。栗の実だ。数日前までは最高気温が 30 度を超えるとても暑い日々が続いていたのに、いつの間にか季節は秋になっていた。

４月に入所してきた２歳の女の子、A ちゃんがいる。入所当初はまだ、赤ちゃんのようで、こちらが声をかけても、ニコニコしているだけで(それだけで十二分にかわいいのだが)何を言っているのかよく聞き取れなかった。先日のことである。中庭で遊んでいる A ちゃんに声をかけた。ニコニコしながら、私の方に近寄り「おーちゃん」と、とてもはっきりと私の名前を言った。知らぬ間に、私の名前を覚え、言葉も明瞭になっていた。

思春期を迎えた子ども達は何かと職員に反抗をする。「ババァ」とか「消えれば・・」とか、職員を傷つける言葉を発することもある。そんなある日、ある男の子が、若い職員に対して、暴言を発した。そのことで職員とその子どもがぶつかった。すると、高校生と中学 3 年生の A くんと B くんが、その男の子に「そんな言い方するなよ」と言った。そして、その男の子の対応をしている職員に代わって、夕食後の食器洗いをすべてやってくれた。数年前まではその男の子と同じように職員に反抗ばかりしていた A くんと B くん。いつの間にか人を思いやる心が育っていた。日々の業務の大変さが大きな励ましと喜びに変わった。

こどものうち八栄寮では、自然に囲まれた環境の中で、季節の変化を「発見」し、子ども達の昨日までは見ることができなかった姿を「発見」する。これからも子ども達と共に生活をしながら、さまざまな「発見」をしていきたい。

子どもたちの発見

こどものうち八栄寮　ケアワーカー　武藤 海月

入職してからの短い期間で、こどもの日フェスティバル、ディズニーレク、夕涼み会や各小舎でのレクなど多くの行事を通し、普段見られない子どもの新たな表情を見ることが出来ました。

ディズニーレクでは小学校低学年 4 名と一緒に行き、朝早くに起き活動をしたので後半には疲れが出て必ず早めに帰りたくなってしまうだろうと考えていました。しかし、そんなことは一切なく「楽しいね」「次はあれ乗りたい」というような元気な言葉が聞けたこと、最初から最後まで自分の荷物をしっかり持ち歩けたこと、お土産を買う際には自分でお財布を出し、職員の助けなくやり取りができたことにも驚きを感じました。

夕涼み会では、学業や部活で忙しい中アイディアを出し合って皆を楽しませようと盛り上げてくれる高校生の姿、会を全力で楽しむ子どもの姿も傍で見ることが出来ました。

今後も行事に参加していく中で、子どもの新たな姿、表情を見ることが出来る事を楽しみに、私自身もたくさん学び成長していきたいと思います。

初心の気持ち

こどものうち八栄寮　ケアワーカー　川井田 礼美

入職してからの半年間で、私は子どもたちと関わる中で自分自身に関する一つの発見が出来ました。

八栄寮の子どもたちは、職員の事をあだ名や名前にさん付けで呼んでいます。私も入職してから毎日「礼美さん」と呼ばれるようになりました。今までの人生の中で名前で呼ばれることは何度もありましたが、子どもたちから名前で呼んでもらえる事がこんなにも嬉しいと感じる事に自分でもとても驚きました。

日々の子どもたちとの生活の中では、感情的になってしまったり叱らなければならなかったりする場面も多々あります。しかし、叱った後に子どもたちが私の名前を呼んで話しかけてくれると嬉しいなと感じ、この子どもたちの為にまた頑張ろうという気持ちが湧いてきます。名前を呼ばれて嬉しいと感じる気持ちは、長く子どもと関わるほど慣れてきてしまうものだとも思いますが、この嬉しい気持ちを忘れずに、これからも子どもたちと関わっていきたいと改めて思っています。

成長の早さ

こどものうち八栄寮　ケアワーカー　岩崎 陽香

この職場で働いてみて多くの事を“発見”することが出来ました。最も多く発見するのは“子どもの成長について”です。最近まで伝えたいことが上手く言葉に表せず、単語で会話していた子が最近になって文章で会話出来るようになりました。子どもはその場の職員の言葉や子ども同士の言葉で会話するので、私達の言葉が伝わっているのだと感じました。子どもへの職員の伝え方は多種多様で、職員同士情報共有をしながら子ども達と関わっています。対応に困ることや挫けることもありますが、多くの意見を聞いて試す場所があるので、更なる発見に繋がります。

入職 2 年目になり、業務にも余裕が出来て子ども達にどんな場面でも関われることが多くなりました。子どもへの“発見”だけでなく、業務の効率を上げる為の研修に参加し、先輩職員の姿を見てやり方を真似してスキルアップの向上を目指しました。業務を効率よく終わらせることで子どもとの時間も増え、関係が深まっていきました。今後も小さな“発見”を見逃さないように、アンテナを張っていきたいです。

発見のその先へ

こどものうち八栄寮　ケアワーカー　吉田 葵

この仕事は、本当に沢山の「発見」に囲まれています。嬉しい発見は日常の些細なことにも溢れ、子どもが私の身長を超えた時、行事で頑張る姿を見た時、つい笑顔になります。その小さな嬉しい発見を共有していけるのは、生活援助の現場ならではの素敵さだと思っています。

しかし、この仕事では時に見つけたくなかった残念な発見もします。肩を落としため息をつくような出来事にも、共に暮らす中で気づいてしまいます。ただこの残念な発見は、同時にチャンスでもあると思います。残念な発見をそのままにせず本気で向き合い、子どものこれからの人生のために、どれだけ意味のある教訓として伝えていけるか。時にはぶつかりながら、それでも最後は寄り添いながら、子どもと共に試行錯誤すること。それは生活の現場で支援する職員だからこそ出来る役割なのではないでしょうか。

今後も出会っていく沢山の発見を前向きな未来へと繋げながら、子どもと共に歩んでいきたいです。

地域支援をする中で「発見」したこと

リフレここのえ　施設長　横井　義広

朝、リフレここのえの玄関の呼び鈴を「ピンポーン」と鳴らす子どもたちがいます。だいたい小学校の登校時間に合わせて 3 家族 6 人の小学生の子どもたちが来ます。

学校がある日は毎日の風景です。もう長い子は 1 年くらい続けています。8 時を過ぎると学校に遅刻してしまうので、8 時を過ぎても来ないと職員はそわそわし始め、来なければ子どもたちの家に向かいます。今度は職員が子どもたちの家の呼び鈴を鳴らしに行くのです。途中で出会ったり、行ったらきょうだいケンカをしていたりと毎日何らかの理由があります。

ある時、関係者会議がありました。児童相談所、子ども家庭支援センター、学校等様々な機関が集合して今後の家庭支援を検討しました。学校からは、「学校にくれば全力で見ます」との話がありました。それぞれの機関の得意なことと、あまり得意ではないことがあります。学校の得意なことは言わずもがな「教育」です。そこで私たち職員で考えて、「子どもを学校にきちんと届ける支援をしよう」ということになりました。不登校になると、家庭も学校も大きなエネルギーを費やすことになり、家庭内での葛藤も高まってしまい、子どもの自尊心が低下するのは火を見るより明らかです。

3 家族 6 人の子どもたちは、実はリフレここのえを退所した子どもたちです。ある子は施設内の学童保育に、ある子は無料塾オリーブ八王子に通っています。私たちは交代勤務なので様々な職員が関わりますが、具体的に家庭支援を進めているのは「自立支援担当職員」と呼ばれる職員です。児童養護施設には以前から配置されていましたが、母子生活支援施設にも 2 年前からようやく配置になりました。朝のこの小さな取り組みは実は地域の家庭支援のとても大きな活動ではないかと私たちは考えています。地域支援とはすなわち、「予防的なかかわり」だと思うのです。子どもより早く出勤してしまう親に代わって（または学校に送り出す力が弱い親に代わって）、きちんと学校に登校するお手伝いをすることで、不登校や引きこもりにならず、教育環境にきちんと参加させることが、子どもの将来につながることだと考えています。

【各施設　在籍者数】（令和5年11月末現在）

こどものうち八栄寮	リフレここのえ	八王子市子ども家庭サービス事業利用者数 令和５年６月～令和５年 11 月末
幼児　９名　小学生　15 名 中学生 16 名　高校生他　９名 【計 49 名】	乳幼児　22 名 小学生　８名 【計 18 世帯　48 名】	ショートステイ　398 名 トワイライトステイ　110 名 合計　508 名

発見

リフレここのえ　少年指導員　三橋 萌海

リフレで働いて発見したことは　3 つあります。1 つ目は、職員が明るく働いていることです。4 月に入職して、約半年が経ち、まだまだわからないことや覚えること、悩むことは沢山ありますが、一緒に働く先輩方や同期が明るく、何気ない会話などで事務所の雰囲気がとても良いです。楽しく前向きな気持ちで働くことが出来ています。これからも頑張って働きたいと思います。2 つ目は、子ども達と接する中で、毎日成長しているなと感じることです。いつも学童で話しをする中で伝わっているか不安になることがありますが、いつもはやんちゃで目立つ子が他の低学年に優しくしている姿や、学童の子たちが素直にごめんね、ありがとうと言えるようになっている姿をみて成長しているなと実感します。これからも子ども達と関わりながら沢山の発見が出来るように 1 日 1 日を大切に過ごしたいと思います。3 つ目は、食事をとても大切にしていることです。学童のおやつを手作りしていたり、懇談会で職員が作ったご飯をみんなで楽しく食べることを通しての関わりを大切にしています。

毎日、色々なことがあり戸惑うこともありますが、多くの発見や学びがあり、充実して働くことが出来ています。1 年目で分からないことが多いですが、先輩方に教えて頂き沢山のことを学んでいき、支援に繋げられるように頑張りたいと思います。新しい発見が出来るように、日課に取り組んでいく中から子ども達やお母さんとの関わりを観察し、積極的に関わっていけるようにしていきたいと思います。

子どもと過ごし発見したこと

リフレここのえ　少年指導員　　大田 航也

4 月にリフレここのえへ少年指導員として入職し、早くも 9 か月が過ぎようとしています。少年指導員は、毎日子どもと一緒に、遊び、走り、食べ、学び…「親」とも「学校の先生」とも異なる立場で子どもとかかわり、子どもの育ちを支える仕事です。いままでに育児の経験や、子どもとかかわる仕事の経験がない中で、果たして自分に少年指導員が務まるだろうか、と不安に思う気持ちもありました。

しかし、日々子ども達と過ごし、発見したことがあります。それは、子どもを育てた経験はなくとも、自分自身が育てられた経験はある、ということです。子どもとかかわる中で、ふと、私が子どもだった時に親からかけられた言葉が出ることがあります。そのときの親の思いを改めて認識するとともに、自分が育てられたことで、無意識のうちに子どもを育てる姿勢を親から学んでいたことに気づきました。

いま私たち職員が関わっているこの瞬間が、リフレの子ども達にとっての「育てられた経験」の一部になります。子どもたちがやがて大人になったとき、「リフレの職員はあんな言葉をかけてくれたな」「自分を大事に思っていてくれたんだな」と思い出してもらえるような少年指導員でありたいと思っています。

よろしくお願いします

リフレここのえ　母子支援員　垣内 桃子

4 月からリフレここのえで母子支援員として働き始めました。夢だった母子生活支援施設で働くことが出来て、とても幸せです。先輩方やお母さん方、子ども達から、毎日たくさんのことを教えてもらっています。リフレに配属されることが決まった日から、お母さんと子どもを支援する事はどういう事なんだろうと考え続けていました。出産や育児はもちろんの事、リフレに来る人たちは私には想像もつかない経験をしてきた人ばかりで、私に何ができるんだろうと思いながら 4 月 1 日を迎えました。初めてケースを任せていただき、お母さんと一緒にたくさんの事をする中で、いくつもの新しい発見がありました。その内の一つは、普通のことを一緒にするのが支援になるということです。お母さんと買い物に行ったり病院に行ったりして、普段の生活の様子やお母さん達の素直な気持ちを聞くことが、支援する中でとても大切なことだと知りました。私がお母さん達のことを知るだけでなく、お母さん達に私の事を知ってもらうことで、日常の中での何気ない会話も弾み楽しくなりました。生活の中の何気ない一場面を一緒に過ごすことが、今の私に出来る精一杯のことであり、とても大切なことだと思っています。

まだ入ったばかりの私なので、これからたくさんの課題に直面していくと思いますが、一緒に過ごす時間を大切にし、乗り越えていきたいと思っています。

子育て応援ひろば
てんとうむし
社会福祉法人同胞援護婦人連盟

てんとうむし担当　内藤 珠美

コロナ禍が終わり、様々なイベントで食べ物を親子で一緒に食べることもあります。家では野菜を食べないという子がてんとうむしでは野菜を食べていると驚いているママ、「これはどうやって作ったのですか？」と聞いてくるママもいました。てんとうむしでお友達を見たり、母とは違う大人と関わることで子どもの新たな面を発見できる場所にもなっているのではないでしょうか。

法人のロゴが決まりました

社会福祉法人
同胞援護婦人連盟

社会福祉法人
同胞援護婦人連盟

DO は同胞の同、EN は援護の援。この援は「縁」とも掛けています。顔は「母と子ども」もしくは「職員と子ども」をイメージしました。法人は家（うち）、職員は窓（窓口）、親子や子どもは住人です。温かい気持ちをイメージして十分に余白をとり線を細くし、全体的に丸みを帯びた形にしました。

当法人は、もうすぐ 80 周年を迎えます。新しいロゴ共々、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

～ご寄付のお願い～

1　郵便振替　　：社会福祉法人同胞援護婦人連盟　００１１０－１－４９９３５９
2　ゆうちょ銀行　：社会福祉法人同胞援護婦人連盟　０１９店　当座　０４９９３５９

・折り返し当法人からの領収書をお送りします。
・社会福祉法人に対するご寄附は確定申告で所得控除の対象になります。
・住民税控除についてはお住まいの区市町村へお問い合わせください。

社会福祉法人同胞援護婦人連盟

児童養護施設　こどものうち八栄寮
母子生活支援施設　リフレここのえ
八王子市　子ども家庭サービス事業

〒193-0944　東京都八王子市館町 2232-1
Tel:042-661-5891　Fax:042-667-0006
http://www.doenfujin.jp

編集後記

今号のテーマは、「発見」です。
　入職歴が浅い職員を中心に原稿をお願いしました。この法人に勤めて改めて発見したこの仕事の「やりがい」や「面白さ」を綴ってもらい、私自身も再発見することが出来ました。
　職員皆で、ますます成長していきたいと思います。

【広報誌担当　馬渕将吾・小幡美智子】

ご意見・ご感想・ご質問を法人宛のお手紙または FAX でぜひお寄せ下さい。お待ちしております。